



地域医療連携室だより Vol.79

平成 28 年 1 月 1 日発行

発行元 大津市民病院地域医療連携室

住所 〒520-0804

滋賀県大津市本宮二丁目 9 番 9 号

TEL 077-526-8192

<http://www.municipal-hospital.otsu.shiga.jp/>

新年のご挨拶



明けましておめでとうございます。

大津市民病院 院長 片岡 慶正

皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

“明るい話題探し”が難しい局面の一年でしたが、当院では明るい話題として、“がんに一層強い病院”として着実な成果を挙げています。新たな放射線治療リニアック症例も年間 100 例超の勢いで優れた治療成績を挙げています。手術支援ロボット「ダビンチ」も保険適応の前立腺はもとより、腎および胃切除の先進医療の推進で、低侵襲で患者に優しく有効な実績を積み重ねています。

滋賀県内で唯一の「ダビンチによる胃がん切除」はこの 9 か月間で 16 例に達し、トップランナーとして安心・安全な先進医療をリードしています。ドクターカー運用とともに、院内外に宣言した『救急ノンストップ病院』も日々バージョンアップしています。従来から狭隘であった『化学療法部』と『外来通院手術部』を琵琶湖ビューが楽しめる本館 6 階に拡充・移転し、ご利用者の皆様からはご好評をいただいています。健診センターをはじめ早期診断から、内視鏡的および外科的治療、化学療法、放射線治療そして緩和ケアまで、すべての領域のすべてのステージに一貫して密度の高い“がん診療”の充実を地域の皆様と共有できる環境が整備されたことは望外の喜びです。

昨夏には診療所訪問をさせていただき、地域の皆様のご理解もいただき、『かかりつけ医』登録制をスタートさせていただきました。かかりつけ医の地図、紹介パンフレットの院内特設コーナーを整備しました。多くの患者さんに好評で、徐々に“地域医療機関の機能分化、強化と連携、在宅医療の推進”が浸透しつつある感を強めています。当院では、逆紹介の積極的推進に努めています。地域医療支援病院として今後もさらなる紹介率の向上が必要です。いざという時にいつでも紹介いただける地域連携を深化いたします。医療の質向上はもとより、患者ニーズにハートフルな病院であり続けたいものです。

患者ニーズに応じて医療ははじめてその輝きを増す。メイヨー・クリニックのコア・バリューは The needs of the patient come first. (患者のニーズが第一)である。この具現化には長年の磨き上げられた組織的強さと職員一人ひとりの誇りに裏付けされているのを驚愕して実体験した。学びを活かさなければならぬ。医療に対する患者ニーズ、地域ニーズ、社会ニーズは過膨張の一途にあります。多様化、肥大化、複雑化した患者ニーズに応えるのは本当に難しいものです。しかし、今一度整理して単純化すれば、溢れんばかりの医療情報が錯綜する現代社会において、“情報の非対称性”が逆に拡大していることの認識と、患者ニーズの根底と医療ニーズの到達点は“納得の医療”であることの再認識が医療者側に強く求められるのではないのでしょうか。医師をはじめ医療者は患者側から見た医療情報の非対称性が拡大する中で、個々の患者の求める情報の不均一性に敏感でなければならぬ。やはり、プロアクティブ思考での人間力の磨きが大切です。

今日の医学・医療の進歩は西洋医学を基盤としています。しかし、われわれ日本人には東洋的精神に共鳴する“心の遺伝子”を生来育んできました。仏教語に同治と対治という教えがあり、われわれ医療者に多くを語りかけてくれる学びの考え方・アプローチであると思います。例えば、発熱時に熱を下げるために氷で冷やして、薬で解熱させようとするのが「対治」で、病は戦うべき相手で、薬や手術で治そうとする医療行為そのものがこの典型である。一方、発熱時に温かく汗を充分にかかして熱を下げるのが「同治」です。悲しんでいる人に、「悲しんでばかりではダメじゃないか。もっと元気を出せ」とするのが「対治」で、「辛いですね。よく分かります」と悲しみを分かち合い、心の重荷を下ろそうとするのが「同治」で、病を受け入れた寛容で解決を導くアプローチです。医学が進歩したといわれる現代でも、末期がんの患者の看取りでは最後はこの同治によるしか道がない。患者ニーズの根底が、一人ひとりの“納得の医療”であるとすれば、医療者には対治と同治を包括した智恵の実践が求められる。当院における本年度の合い言葉は“自発と協働”です。職員一同、医療に身を投じた原点に立ち戻り、病めるヒトの心を中心においた視点で日々の診療に携わりたいものです。

今年の干支は申(さる)ですが、申年の申は本来「しん」と読み、「のびる」や「もうす」という意味があり、申には病や厄が「去る」という云われもあり縁起が良いとされています。大いに期待したいものです。新しい年が皆様にとりまして輝かしい一年でありますようにご祈念し、地域の皆様とともに歩ませていただけることに感謝いたします。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

化学療法部診療部長 就任のご挨拶

平成 27 年 4 月 1 日より化学療法部診療部長を拝命しました益澤です。

化学療法部は抗がん剤治療や免疫療法を必要とする通院患者さんのための外来治療室です。

近年の医学の発展に伴い、分子標的剤などの新しい抗がん剤などが次々と開発され、治療効果が高く、副作用の少ないがん化学療法が提供できるようになりました。薬の種類や組合せによっては 1 日数時間だけの点滴治療も可能であるため、外来で化学療法ができる化学療法部の必要性は年々高まっております。



化学療法部診療部長
消化器内科医長 益澤 明



治療室からの風景



治療室

1 日数時間の治療であっても治療室の環境整備は重要な課題と考えております。平成 27 年 11 月に本館 2 階から本館 6 階に移転させていただき、見晴らしの良い明るく静かな治療室となりました。さらに 1 人当たりの治療スペースも拡張され、ゆったりと過ごしていただけます。外来フロアからは離れましたが、安心して治療を受けていただけるように化学療法部治療当番医と専任看護師が担当させていただきます。

毎月 1 回開催する化学療法委員会では各科代表医師、がん化学療法看護認定看護師を含む常勤看護師、薬剤師、検査技師など 20 数名が集い、がん化学療法の新規レジメンの審議と承認、B 型肝炎関連検査状況の監視、化学療法部運営における問題点などの協議をし、安全で質の高い化学療法を提供することに努めております。

まだ改善しないといけない問題があるかと思いますが、今後とも皆様のご指導、ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

滋賀県緊急被ばく医療人材育成研修会が 当院にて実施されました

12 月 6 日 (日) 13 時～17 時

大津市民病院 9 階大会議室

原子力災害時に緊急時防護措置を準備する区域内住民を円滑に区域外に避難させるため、迅速かつ効率的な被ばく状態をスクリーニングすることが必要になります。滋賀県からの委託事業として今回当院にて研修会が実施されました。

(公社)滋賀県放射線技師会の専門担当技師が中心となり、「放射線の基礎知識と人体の影響」・「原子力災害医療、スクリーニングについて」・「放射線防護機材の取扱いと線量計取扱い実習」の研修内容で院外から医師・薬剤師・看護師・医療事務・放射線技師の 28 名、院内から 9 名、計 37 名の参加者で実施されました。

平成 30 年度までに多くの緊急被ばく医療人材育成が目的ですので、数回研修会が設定されますので、是非参加をお願いします。次回は平成 28 年 2 月に済生会滋賀県病院にて行う予定です。



クリスマスコンサート



12 月 22 日 (火)、大津市民病院の 1 階正面玄関ロビーにおいて、恒例のクリスマスコンサートが開催されました。

有志による賛美歌のコーラスに始まり、ピアノ、フルート、バイオリン、そして「さど耳鼻咽喉科クリニック(京都市)」の佐渡文彦院長をお迎えしての、チェロ演奏も加わった華やかなコンサートとなりました。

滋賀県がんと向き合う週間 協賛事業

大津市民病院大学 公開講座



「受けていますか？がん検診」
～がんの早期発見、早期治療のために～

平成 28 年 2 月 5 日 (金) 14 時～15 時

大津市民病院 9 階 大会議室

講師：洲崎 聡 (健診センター所長/外科)

公開講座のためどなたでもご参加いただけます。
当日受付も可能ですが、資料準備の都合上
できるだけご予約をお願いします。